津々浦々 ㊾

津久見市長　吉本幸司

これからの行財政改革

本年も「津々浦々」をよろしくお願いいたします。

昨年の12月25日で私が市長に就任して丸10年が経過しました。この間、行財政改革を旗印に、「将来にわたり自立できる津久見市」を目指してきました。市民の皆さんに多大なご迷惑をおかけする傍ら、様々なご支援をいただき、また職員の協力もあり、なんとか将来に向け自立できる財政状況になり、感謝申し上げます。

と申しましても、まだまだ厳しい状況には変わりなく、国の負債額から考えても、消費税は上がるものの交付税の増額は期待できず、今後も行財政改革は続けていかなければなりません。

10年前の就任当時、３２７名の職員数は、平成26年度当初には２２７名と１００名の減少となります。10年前に30億円弱だった人件費も20億円弱となり34％削減ができました。

職員の内訳は消防職員37名、給食調理員12名となる予定で、技術系、事務系の職員は実質１７８名となります。国や県からの権限委譲が毎年続き、仕事量は増えていく中で適正な職員数について今後も検討していきたいと思います。

今年度中に県と市町村会合同の職員研修センターが完成し、26年度から運用が開始します。このような中、本市でも職員研修を増やし、職員交流等も活発化させることで職員一人ひとりの能力と”やる気“を上げていきます。

津久見のＰＲをより広範囲へ

昨年度末、東九州自動車道の佐伯～蒲江間の開通が平成26年度内に前倒しとなり、平成27年３月末までには開通する運びとなりました。険しい地形のため、その高速道の大部分がトンネルと橋になるようです。大分～延岡間は西日本高速㈱の所有ではなく、国直轄の国道となることから、この区間での通行料金の徴収はありません。北九州から宮崎まで開通することで、私たちの移動もますます楽になり、全国、特に北九州や宮崎からも多くの観光客を集めることもできます。

大分市では大分県立美術館が平成26年度中には完成し、平成27年度中にはオープンします。ＪＲ大分駅の駅ビルも平成27年の秋までにはオープンの予定で、その秋にはＪＲデスティネーションキャンペーン（ＤＣ）という全国に発信する大々的な観光キャンペーンが展開されます。今年の６～７月にはＤＣをにらんでプレキャンペーンが開かれます。平成26年に充分に準備をし、平成27年は大きく花開かせる年にしなければなりません。

「県都が変われば大分が変わる」という事で、「大分市ばかりが……」と思わずに、このチャンスを大いに活用しましょう!!　そのためにも今から津久見をＰＲする準備をしていく必要があります。

広がりを見せる「津久見モイカフェスタ」

今年の「モイカフェスタ」は順調のようです。毎年11月から１月末までの３ヵ月間実施される「津久見モイカフェスタ」も今年で３回目。イカで有名な佐賀県呼子町に冬場供給していた津久見モイカを、少しでも多く地場で消費して観光に繋げようと始まりました。

１年目は13店舗で１千５百食、２年目は４千食、そして今年は７店舗で１万食を越える勢いです。このフェスタの自慢できるところは当然モイカの味でありますが、それを支える三位一体の体制です。生産者（漁師）、いつでも新鮮な形で供給する流通業者（漁協）、それをお客様の口に運ぶ商業者（レストラン）が各々スクラムを組めた事が大きいと思います。そして１年目の検証をしたうえで得られた課題に対して、いつでも料理を提供できる体制づくりや、お客様のニーズに合わせた単価設定など、進化させていることだと思います。